

東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成28年度～平成30年度予算事業)

1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費		
2	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！ アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	平成28年12月	平成31年3月	177,818,220円		
事業全体の概要・経過						
<p>本市は、移住促進や観光振興を進めるうえで、認知度の低さが大きな課題となっているが、坊っちゃん劇場による舞台芸術の各種取組は全国の舞台関係者に知られるところとなった。これをチャンスと捉え、本市を舞台関係者の集うまちとする「アートヴィレッジとうおん構想」を平成28年度に開始し、平成30年度までの3か年計画で交付金事業に取り組んだ。</p> <p>具体的には、多様な舞台芸術の観賞・体験プログラムの企画及び試行、8K技術による舞台芸術の流通促進の試行、俳優養成所の開設などの人材育成事業の準備に取り組み、これらを通じて舞台芸術の聖地化(オンリーワンのまちづくり)を図ることで、市の認知度を向上させ、交流人口や関係人口の増加、ひいては移住者の増加に繋げる。また、本事業と並行して、文化交流拠点施設「東温アートヴィレッジセンター」を整備し、ハード・ソフト一体となって芸術文化の振興による地域の活性化・地方創生の実現を目指すこととした。</p>						
交付金事業として採択されたポイント 及び 事業完了後、令和3年3月時点の状況						
①自立性	②官民協働	③政策間連携	④事業推進主体の形成	⑤地方創生人材の育成・確保		
<p>移住定住促進協議会と坊っちゃん劇場が協働して事業を立上げ、3～5年以内に自立化を目指す。</p> <p>⇒市や文化庁などの支援を受けながら、同協議会主催・東温市共催で自立的に舞台芸術関連事業を展開しており、全国の舞台関係者の注目度も年々高まり、地域おこし協力隊(アートヴィレッジ構想担当)への応募数も急増している。</p>	<p>市、移住定住促進協議会、坊っちゃん劇場、地域運営組織がそれぞれの強みを持ち寄り連携する。</p> <p>⇒坊っちゃん劇場の協力を得つつ、公益性や多種・多様性、地域性を重視した独自プログラムを企画し、地元劇団や地域組織、地元アーティストの協力を得て、関係者を増やしながら各種事業を実施している。</p>	<p>総合戦略施策(市内施設の観光・交流拠点化、新規産業支援、地域情報の発信など)を連携させる。</p> <p>⇒県外からの来訪者も見られるようになったが、芸術を観光のため活用するという観点だけでは芸術家が集まらないため、マーケティング視点で徹底した集客を図りつつ、内容としては市民との協働や子育て環境の質的向上、地域文化の発信などに資する社会貢献度の高いプログラムを優先的に実施している。</p>	<p>東温市移住定住促進協議会内に「アートヴィレッジ推進部会」を形成する。</p> <p>⇒地域おこし協力隊として移住した専門人材及びOBが中心となって企画し、同協議会が主催者となって事業を継続的に実施している。</p>	<p>舞台芸術の専門人材を地域おこし協力隊として誘致、本事業を通じて企画マネジメント人材として育成する。</p> <p>⇒地域おこし協力隊の3年間で満了した隊員は全員定住しており、各自が持つ専門スキルを連携させ、企画から実践までを高いレベルでマネジメントできる創作チームが育ってきている。</p>		
事業を構成する個別事業名		事業費	対象経費	財源内訳		
				地方創生交付金	地方債	一般財源
1	アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	92,221,260円	92,221,260円	45,959,153円	0円	46,262,107円
2	アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業	85,596,960円	76,184,000円	38,092,000円	38,000,000円	9,504,960円
					0円	0円
合 計		177,818,220円	168,405,260円	84,051,153円	38,000,000円	55,767,067円

2. どのように実行したか(Do)

個別事業の実施内容	個別事業の成果(令和3年3月時点でどうなっているか)
<p>(1) 市直営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進事例調査を行い、構想を策定。 ・ 構想全体の認知度向上を目指した各種プロモーションの実施。 ・ 市民ミュージカル「城ノブ」メンバーによる観月祭への出演。 ・ 東温アートヴィレッジセンターオープン記念イベントの実施。 ・ 舞台芸術の8K映像化と観光への応用をテーマとした国際シンポジウムを企画・開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年6月に「アートヴィレッジとうおん構想」を策定。概ね計画通り実施してきたが、約4年を経過し、地方創生交付金を活用した大きな投資も終え、状況の変化も見られるため、今後の構想後期5年間(令和3年度～令和7年度)に向けた計画の見直しが必要になっている。 ・ 市内及び近隣市町においては一定の認知度とファン層が確立してきており、各種SNSで周知した際の反応や参加申込等は年々早くなっている。新型コロナ後においても、席数を減らした定員に対して集客不足となることはなく、事業収支は均衡している。しかし、興味を持つ市民とそうでない市民の温度差は大きく、更なる浸透に向けた工夫が求められている。
<p>(2) 移住定住促進協議会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演劇WS、ダンスWS、音楽WSなど各種ワークショップ等の企画及び試行。 ・ 中山間地域の拠点施設を活用した演劇公演等の実施。 ・ 俳優養成人材のスキルアップ講習の実施。 ・ 高齢者施設でのミュージカル公演の試行。 ・ アーティスト向けアトリエ整備(滑川楓荘) ・ 8K映像演劇上映会の実施(東京、愛媛) ↓この経験・ノウハウを生かして ・ 多種多様な舞台芸術プログラムを年間通して実施する 「東温アートヴィレッジフェスティバル2018、2019、2020」を開催。 (文化庁補助金「文化芸術創造拠点形成事業」採択事業として実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初の目標としては、舞台芸術の産業化を図ることであったが、現状としては、1つのプログラム単位で収支均衡を目指す場合、愛媛における参加料の相場が低いため、これに合わせてコストを削ると質の低下を招き、顧客が離れる悪循環となる場合がある。このため、現状としては、売上1/3、市費1/3、国費1/3のバランスで、市費負担の低減とプログラムの質の両立を図り、参加者やファンを増やしていくことで安定して年間3,000人以上を集客することができており、今後さらに自立度を高めていくことを目指している。 ・ 産業化とは別側面として、市民に多種多様な舞台芸術を楽しめる選択肢を提供することにより、「住みやすい」だけでなく「住むことが楽しい」まちになることで、多様な人材が流入し、さらに新しい企画が生まれる循環(関係人口の創出)は確実に生じている。
<p>(3) 拠点施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東温アートヴィレッジセンターを整備。 ・ 坊っちゃん劇場を運営する「株式会社ジョイ・アート」及び「東温市移住定住促進協議会」による共同事業体(代表団体:株式会社ジョイ・アート)に指定管理業務を委託。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年4月に開館し、維持管理、利用管理、舞台芸術に関する自主企画事業を指定管理者が一元的に実施。 ・ 上記の「東温アートヴィレッジフェスティバル」は、文化庁等の支援を受け、協議会が地域性や社会性を重視して選定した多様なプログラムを実施するのに対し、指定管理者による自主企画事業は坊っちゃん劇場のプロ人材が講師となる「とうおん舞台芸術アカデミー・ミュージカル俳優養成コース」や映像上映会など、集客性や採算性、民間事業としての自立性を重視して実施している。公・民の両視点のバランスを取りながら、総合的に芸術拠点化を目指していきたい。

3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI) ①	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	増加の累計
演劇関連産業への従事や演劇技術の修得、研鑽等を目的とした移住者数(家族を含む)	基準値	12 人	目標値	3 人	20 人	20 人	30 人	30 人	103 人
			実績値	3 人	10 人	2 人	2 人	人	17 人
			達成率	100.0 %	50 %	10.0 %	6.7 %	0.0 %	16.5 %
重要業績評価指標 (KPI) ②	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	増加の累計
レスパスシティ(坊っちゃん劇場が所在する商業施設)の入場者数(現状値:過去3年間の平均値)	基準値	3,430,000 人	目標値	5,000 人	20,000 人	20,000 人	- 人	- 人	45,000 人
			実績値	13,000 人	-29,000 人	-94,000 人	人	人	-110,000 人
			達成率	260.0 %	-145 %	-470 %	%	%	-244 %
重要業績評価指標 (KPI) ③	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	増加の累計
坊っちゃん劇場観劇者数(現状値:過去3年間の平均値)	基準値	72,919 人	目標値	1,000 人	2,000 人	3,000 人	3,500 人	3,500 人	13,000 人
			実績値	8,864 人	7,303 人	3,548 人	-7,295 人	人	12,420 人
			達成率	886.4 %	365.2 %	118.3 %	-208 %	%	95.5 %
重要業績評価指標 (KPI) ④	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	増加の累計
東温アートヴィレッジセンターにおける演劇関連サービスの売上額(※施設利用料金と自主事業参加料。想定した8K事業などの新規事業収入がまだ生じていない。)	基準値	0 円	目標値	0 千円	5,000 千円	55,800 千円	62,500 千円	70,000 千円	193,300 千円
			実績値	0 千円	0 千円	6,632 千円	4,519 千円	千円	11,151 千円
			(収支)			683 千円	-22 千円	千円	千円
			達成率	0.0 %	0.0 %	11.9 %	7.2 %	0.0 %	5.8 %
重要業績評価指標 (KPI) ⑤(参考)	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	増加の累計
東温アートヴィレッジセンターの利用者数	基準値	0 人	目標値	0 人	0 人	15,000 人	18,000 人	18,000 人	51,000 人
			実績値	0 人	0 人	10,627 人	14,142 人	人	24,769 人
			達成率	0.0 %	0.0 %	70.8 %	78.6 %	0.0 %	48.6 %

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

KPI①(移住者数)については、H29年度は構想の立ち上げに伴い多くの舞台関係者が移住したものの、H30年度以降は多くの移住者を賄うほどの新規事業化が進んでいないため、4名にとどまっている。しかし、本事業により開始した東温アートヴィレッジフェスティバルは、東京から一律の文化やエンタメの輸入するのではなく、東温市の人材が地域と連携した創造・発信を試みるものであり、その独自性の高さから年々、舞台芸術を通して東温市と継続的に関わる、いわゆる「関係人口」が増えている。このため、同フェスティバルは、文化庁補助事業(文化芸術創造拠点形成事業)の採択・認証を受けた文化プログラムとして継続化している。また、構想を機にアートヴィレッジ関係者が支援して発足した市民団体や市民活動、イベントなども多く見られ、1つ1つの取組の質も向上している。また、全国公募の戯曲賞「TOON戯曲賞」などにより、全国の舞台関係者が今後の構想事業の進展を注視しており、令和2年度は地域おこし協力隊の募集人数に2名に対し、7名のプロ人材からの応募があり、問合せも継続的にある状況であり、発展に向けたチャンスの時期を迎えている。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

KPI②(レスパス入場者数)やKPI③(坊っちゃん劇場観劇者数)については、本事業の規模とその波及効果よりも、エリア全体の集客や、新型コロナウイルス感染症などの外部要因が大きすぎるため、本事業の効果を測定するKPIとしては適切さを欠いたと言わざるを得ない。
 本事業の直接的な効果測定としては、KPI⑤(東温アートヴィレッジセンターの利用者数)は順調に伸びていたが、令和元年度以降は新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。また、KPI④(売上額)については、指標設定時には8Kシアター事業などの事業収入が生じることを見込んでいたが、まだ収益化に至っていないため、達成率が低く出ている。施設管理としては収支の均衡は取れており、健全な運営が継続できている。

②委員のご意見

市民と連携しながら、推進して欲しい。
 定量的なKPIだけで評価するのではなく、定性的な評価基準も必要ではないか。

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に非常に効果があった	地方創生に効果があった	地方創生に一部効果がみられた	地方創生に効果がなかった
今後の方針	事業内容の追加又は変更を行い、発展的に実施する	事業内容の改善・見直しを図りながら継続する	事業の一部は継続、一部は廃止する	事業全体を廃止、又は中止する

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているものの、東温アートヴィレッジセンターはリピーターが定着してきており、東温市移住定住促進協議会主催の「東温アートヴィレッジフェスティバル開催事業」も現状に対応しながら健全に運営できている。さらに利用者・参加者の満足度を高め、繰り返し訪れていただくため、利用予約方法の改善やサービス向上、独自プログラムの磨き上げを図っていく。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

構想の核となる坊っちゃん劇場が新型コロナウイルスの影響を強く受けており、東温アートヴィレッジセンターも連動して影響を受けている。換気設備のある劇場での観劇は比較的安全度が高いと思われるため、安全度をPRしながら集客回復を図っていく。

【事業全体としての改善点】

構想に積極的に関わる「関係人口」が増え、年々質の向上を図っている独自プログラムを通して創る側も参加者側も、東温市を豊かな創造活動の体験・発表の場として認識し始めている。また、移住検討者も増えるなど、プラス材料となる様々な現象が生じているものの、現時点ではこれらを可視化・数値化できていない。このため、今後は定性的な評価基準も交えながら適正に事業評価を行い、地域おこし協力隊及びOBなどの人材・ノウハウの蓄積を図りながら、継続性を持って事業を推進していく。